

カマキ島 横島 小島伊方 小丸小島 東明小島 御堂小島 大角島 エン子島 ウメ

小島 辨天島 躑躅島 京小島 小島沖島 白壁磯 小平市島 松島 地島 粒島

新居郡 實測 大島周廻一里二十六町二十五間、大島浦三十四度三十秒、御代島周廻二十二

町五十二間、黒島周廻二十六町三十五間、遠測 端島

〔愛媛面影三風速郡〕忽那島。

北條の沖中に在り、俗に中島と云、此島十二浦有り、昔時二階堂信濃守民部入道此島に謫居せり、子孫忽那を氏とす、俚諺集に見たり、此島古昔牛馬牧なりしを、村民の訴によりて、其事を止られたり、

〔三代實錄清和〕貞觀十八年十月十三日丙辰、伊豫國言、管風早郡忽那島馬牛、年中例貢馬四疋牛

二頭、其○其下原有道遺馬三百餘疋、牛亦准之、島内水草既乏、蕃息滋夥、青苗初生、風逸踏破、翠麥將

秀、群入食損、百姓之愁莫甚、於斯望請、檢非年貢之餘、皆悉沽却、以其價直、混合正稅、詔從之、

〔忽那文書乾〕伊豫國忽那島地頭名并給田畠事、以申狀披露之處、不可有新儀、可依先例之由、鎌倉殿仰候也、仍執達如件、

建永二年○承元年五月六日

散位花押

〔鹿苑院殿嚴島詣記〕康應元年三月十九日、かまとの關より、周防國やしろの島、よこみいつゐあきふなこしなどいふ浦々島々とをらせ給、此南のかたにあたりて、伊豫國まさきかふろいほたうのうらのせと、ふたかみまさかりのせと、はしかみのせと、ぬわこ○本こ一つなつわなといふ所には、島々いくらも四方にならびたり、

〔日本紀略朱雀〕承平六年六月某日、南海賊徒首藤原純友結黨、屯聚伊豫國日振島、設千餘艘抄劫官物私財、○略下